

～まぶりっと（見守り者）たちの挑戦～

平成27年地域政策研究センター（地域提案型・前期）採択課題

課題名：過疎地における住民主体の見守り体制づくり
研究代表者：社会福祉学部 教授 小川晃子
課題提案者：特定非営利活動法人かわい元気社 横道廣吉
研究メンバー：小柳達也（八戸学院大学）、齋藤建児（東北公益文科大学）、鈴木千紘（北日本医療福祉専門学校）、真田淳（宮古市社会福祉協議会川井センター）
キーワード：見守り、過疎地、住民主体、アクションリサーチ

▼研究の概要（背景・目標）

宮古市川井地区（旧川井村）は、過疎化・高齢化が進んでいる。能動的な安否発信である「おげんき発信」が普及しているが、認知症等により自己発信ができなくなる高齢者も増加している。見守りと生活支援体制の再構築を住民とともに取り組んだ。

▼研究の内容（方法・経過）

宮古市社会福祉協議会川井センターとともに、地域に介入しながら問題解決を図るアクションリサーチを行った。

2015年5月に、地区内の全民生児童委員を対象とする調査を実施し、その結果をもとにワークショップで見守り体制再構築の合意を形成した。

川井・小国・箱石の3地区ごとにワークショップを開催し（表参照）、民生児童委員・行政連絡員・自治会役員・消防団・郵便局職員等で見守り体制づくりを検討し、取り組んだ。

NPO法人かわい元気社では、スマホ・タブレットの研修を行い、見守り者の育成を行った。

▼研究の成果（結果・考察）

本研究の介入により、川井地区の住民主体の見守り体制の再構築が、地域特性に応じて進んだ。

川井地区では、福祉マップづくり（写真参照）に取り組み、見守り体制と課題を可視化した。今後は、1年に1・2回、「まぶりっと会議」を開催することになった。

箱石地区では、地域づくり委員会が主体となって、タブレットとSNSを活用した見守り情報の発信と共有に取り組むことを合意し、研修と実践を行った（小川の別稿参照）。

小国地区では、今後の取り組みが課題である。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- アクションリサーチにより川井と箱石地区では住民主体の見守り体制再構築が進んだが、小国地区では今後の取り組みが課題である。
- ご協力いただいた宮古市社会福祉協議会・宮古市・かわい元気社・郵便局等の職員の皆様、及び民生児童委員・行政連絡員・地域づくり委員会・消防団・ボランティア等の川井地区住民の皆様に、厚く御礼申し上げます。

表.ワークショップの開催状況

日時	地区	内容・結果	参加者数
2015.06.19	旧川井村全域	ワールドカフェ方式のWS. 全民生児童委員を対象として、調査結果を提示し、見守り体制について小地域ごとの検討を進めることへの合意を形成	24名
09.04	小国	小国地区での見守りに関するWS. 参加者少なく再度開催が必要。江繋地区は別開催も要検討。	8名
09.10	川井	気がかりな人が増えている現状が語られ、次回はその把握のために「福祉マップづくり」実施を合意。	12名
10.19	川井	福祉マップづくり	13名
2016.01.26	川井	第一回まぶりっと会議 マップづくりを含めて同様の取り組みを1年に1～2回実施することで合意。	
10.16	箱石	気がかりな人の情報交換について合意。地域づくり委員会を主体として、再度話しあいをすることに。	12名
11.25	箱石	地域づくり委員会主催として初会合。箱石地区における他者見守りの必要性和タブレットを活用した見守りの試行に合意を形成。	16名



写真. 川井地区での福祉マップづくり